

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170101036		
法人名	有限会社 介援隊		
事業所名	グループホーム愛らんど		
所在地	佐賀県佐賀市蓮池町大字小松843番地2		
自己評価作成日	令和 元年 8月 1日	評価結果市町村受理日	令和1年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 元年 9月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族的な雰囲気の中で、個々のペースや意思決定を尊重し、残存能力の活用を行いながら、お一人お一人に合ったお手伝いを見つけ、それぞれの役割を持ち和気あいあいと暮らしていただいています。季節の行事や花を見に出かけたり、買い物などで外出支援も行っています。

7
佐賀江川がそばを流れ、田園が広がり、住宅に囲まれている中に、平屋建てのホームである。ホームでは、一人ひとりの個性を大切に「わきあいあいとゆったり楽しく」過ごして頂く家庭のような温かいホームを目指し、入居者の自立支援に努め、できることはできるだけ自分で行ったり、定期的な外出や地域行事に参加したりと、一人ひとりのペースや意思決定を尊重した支援が行われているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所名変更を見据えて理念の見直しを行う予定であったが、現在も変更はしておらず理念は継続している。施設内2か所に掲示している。	理念は玄関とリビングに掲示している。また、新人の入職時には、理念について説明を行う。気づきがあった時は、話し合いを行い理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も地区老人会、地域の清掃作業に参加したり、歌のボランティアにも来て頂いている。ご近所の方との関係も徐々に良くなってきており時間をかけて少しずつと考えている。	屋外へ散歩に行った時や、顔を会わせた時に住民の方に、挨拶をしている。また、近所の方が庭先を掃いたり、清掃活動等の地域行事の参加や、ボランティアの受け入れ等、地域との交流の機会を増やしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は、地区の方との交流が少しずつではあるが前進していると感じている。今後は地域貢献も考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H30年9月より会議の曜日と時間を変更して参加を呼び掛けたが変更以前と変わらず、ご家族の参加は少なく、ご意見も伺えない状況である。議事録は後日、各ご家族に送付している。面会時にご意見を伺うも特に言われない。	ホームでの報告や情報提供を行い、行政からも意見や助言を受けながらサービス向上に努めている。また、欠席した家族には、資料を送付し、職員にも申し送りを行い、共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広域連合や市保護課には事あるごとに連絡相談し細かくご指導を頂いている	関係機関へ、報告や相談、アドバイスを受けている。いつでも相談できる、より良い協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本姿勢として身体拘束は行わないケアを実践している。勉強会を実施して、スタッフが共通理解できるようにしている。	身体拘束の指針があり、勉強会を定期的に行い、言葉にも注意するなど、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会で虐待について取り上げている。言葉によるもの、身体的なもの等発生してはいない。今後もスタッフ間での相互チェックを行い、虐待に繋がる不適切なケアを見過ごすことがないようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については適用される方もいないため、身近に感じられず勉強会も行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際には専門用語はできるだけ使わずにわかりやすい様に説明を行い、押印やサインを頂く前には必ず理解できたかの確認を行っている。疑問や不安なことについてはいつでも相談できることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱設置しているが一度も投かんされたことはない。面会時の会話の中より意見や要望等を聞き取るように心がけている。	面会時や、面会が難しい家族には、こまめに連絡をとり、状況報告を行いながら、意見や要望を伺っている。それを運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議の中で話し合ったり、必要な場合には出勤者のみで話し合って決めるようにしている。	職員会議の中や、業務中でも、職員の意見や要望を聞き出している。また、管理者の意見だけではなく、職員全員で考えて、それを運営に反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員を2名採用し勤務も楽になったと思われる。できるだけ個々の勤務希望を叶えるように配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正社員を採用にあたっては、早く職場になじめるように、新人支援を行った。今後はスタッフそれぞれのスキルアップを目指し、研修参加を勧め、研修後は報告をおこなってもらう予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はなく、情報交換やネットワークづくりは今後の課題と考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面時からサービスは始まるので、本人様、ご家族様に安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれに複雑なご家庭の事情を抱えておられるので深く配慮し、質問、疑問には良心的に対応し、個々の要望にも耳を傾け、できる限り要望に沿うようにしている。しかし、出来ないことははっきりと伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族との面会や提供された情報から本人様やご家族の状況を的確にとらえて、安心して生活を始めて頂けるよう暫定ケアプランを作り本プランにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは家族であるとの考えでそれぞれにできることをお手伝いしていただいている。又、入居者との絆を大切に、お互いが支えあう関係づくりを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、愛らんどだよりや書かれた書字、塗り絵等を送り大変喜ばれている。面会時には日頃の様子をお話し本人と家族との関係づくりに配慮している。又、ご家族にも関わって頂くようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日には行きたいところ会いたい人等の希望を聞いてお連れしている。ご家族様からは以前より元気になったと大変喜ばれた。	家族の協力で馴染みの場所へ行ったり、会話を通じて、思い出話などを行っている。また、できるだけ馴染みの場所へ出かけるなど、関係が切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性があり、トラブルになることもあるが、一緒に暮らす家族であり仲間として関係性が悪くならないようにスタッフが関わっている。又、施設内で起きたことはご家族面会時にお話ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了となられた方がいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思決定ができる方には選択していただけるような関わりを行っている。困難な方にはスタッフが本人の事を考慮し選択している。	家族からの情報提供や日頃の会話の中で把握している。自分から意向を伝えることが難しい入居者には、選択肢を出し選んでもらうなど、自己決定しやすい工夫をしたり、家族から聞き取ることで、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで生活歴や趣味嗜好、性格や生活習慣等把握に努め、その後もご家族様からお聴き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ずつ異なる生活をして来られているので、個性を尊重することを重視している。行事やレクも声はかけるが強要はしない。それぞれの今にあった支援を行うため現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師に照会をして意見を頂き、ご本人や家族の意向の確認後にスタッフでプランの検討会議を開いて意見交換を行っている。必要な時は随時話し合いを行っている。	面会時に家族の意向確認を行い、会議の中で職員間で意見を出し合うなど、現状に応じた介護計画書の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきは介護記録に残し、重要なことやケアの変更等は申し送りノートに記載し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	平常時はスケジュールはなく、その日の利用者の状態や天候等で何をするか決めている。不穏な方への対応や、外出ご希望があればドライブへ行ったり、施設の外での活動も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はまだ地域の方に認めて頂けるように働きかけをしている段階である。将来的には地域資源との協働ができるようにしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医に受診できることを伝えている。内科は全員の方が訪問診療を選択されている。歯科も訪問診療を希望される。外科、泌尿器科はご自身のかかりつけ医にご家族付き添いで受診されている。	入居時にかかりつけ医を継続することができることを伝えており、かかりつけ医を継続する場合は、家族の送迎で受診をしている。現在、ほとんどの入居者が協力医療機関を利用し、協力医療機関とは24時間体制で連絡が可能で、適切な医療を受けることができるよう連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は非常勤で勤務している。看護師として専門的な記録や諸々のアドバイスをお願いしたり、専門のスキルを発揮していただいている。訪問診療との連携をお願いするときもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら落ち着いたところに面会に伺って、病院からの情報収集を行ったり、担当のSW等に電話で状況を聞いたりしている。退院が決まれば受け入れの準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては現在行っていない。病状に合わせて医師の説明を受けて頂き、今後に関しての相談を受け、ご家族にはどこで最期を迎えるか選択をしていただくことになる。	入居時に説明を行い、意向の確認を行っている。状況に応じて、話し合いを重ねながら、方針を共有し、支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が勤務中は看護師、不在時はドクターコールの医師の指示に従う。頻繁に起こることではないが、応急処置や初期対応には力不足と思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風時には河川の増水に備えて避難所に避難をしている。火災や地震等の避難訓練も実施したい。	日中を想定して、避難訓練を実施している。今回の大雨での避難を実際に経験したことで課題もあり、今後の対策について検討されている。夜間想定での避難訓練や地域住民との協力体制作りは十分とは言えない。	今回の災害を踏まえて火災のみではなく、他災害時の避難訓練も求められる。また、地元消防団や地域、行政を巻き込んだ避難訓練をするなど、さらなる協力体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難しいテーマであり、簡単に身につくものではない。繰り返し勉強をしていく必要があると考えられる。スタッフ会議の中で毎回少しずつ取り上げている。	ホーム内でも繰り返し勉強会を行い、実践につなげている。管理者からも、業務中に助言があり、意識づけが行われている。書類は事務所で管理し、個人情報の取り扱いにも配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に関しては重要視しているが、介護度の高い人でも決定できることがあることに注目して、その機会を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は決まっておらずその日の勤務者に任せられている。ゲームや歌、お手伝い等画一的ではない。スタッフはお誘いはするが強要はしないといった姿勢である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは自由にされていて、何回も着かえられる方もいる。ご自分でできない方に関しては入浴時に二択でお好きな衣類を選んでいただいている。それもできない方は季節に合った衣類をスタッフが選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の果物や食べたいものをお聞きして提供したり、思考が偏った方には食べて頂けるような代替品を提供している。昼食前には嚥下体操をしたり、毎食後に後片付けのお手伝いをお願いしている。	食事は外注しているが、ホームでも入居者の食べたい希望があった時は、手作り食を食べることができる。また、入居者の嚥下状態に合わせた食事形態で提供し、盛り付けを工夫することで、食事を楽しめるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食は宅配の総菜を提供しており、バランスよいメニューとなっている。又、ヤクルトも飲まれている。水分は食事以外で2000CC摂取されている。食事形態はその方に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎夕食後にはスタッフが関わって口腔ケアを行っている、出来る方は朝や昼もご自分でされる。口腔内の不具合や義歯調節等は訪問歯科に依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の個々に合わせた排泄介助を行っている。日中はできる限りトイレを使用している。使用物品の検討も行っている。	排泄パターンやサインから入居者の排泄パターンに応じた対応をすることで、トイレで排泄できるよう心掛けている。また、誘導時の声掛けや対応も一人ひとりに合わせて行うことで、羞恥心にも配慮しながら排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スタッフが排便の管理を行っている。排便状況に応じて内服、座薬使用している。野菜ジュースや牛乳等適宜飲用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴を実施している。一人のスタッフが声掛けから最後まで関わり、ゆっくり落ち着いた状態で入浴されている。介助はできないところのみに留め、出来る限りご自身でいただくよう関わっている。必要時は2人介助している。	週2回、入浴している。入居者の体調やタイミングに合わせ、残存機能維持の支援をしている。また、ゆっくり会話をするなど、入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はそれぞれに違い、個々のペースを尊重し、午睡も自由にされている。介助が必要な方にも意思表示を求め、意思に沿っている。眠れない方には個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合には申し送りノートに記載している。服薬介助の際には誤薬のないように確認をしている。外出時は必要分の薬を準備して外出先で服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれにできることが違うのでその方に合ったお手伝いをお願いしている。楽しみも強要することなく行っている。食べたいものを聞いて提供したり、皆さんの意向を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に問題なければ、毎月1回は外出するようにしている。季節の花を見に出かけたり、ご家族様と1日出かけられたり、自宅に戻って正月を迎えられた方もいた。	花見に行ったり、買い物へ定期的に外出している。また、家族の協力でお正月やお盆に自宅へ外出・外泊したり、日常的な外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持はされておらず現金所持に関して支援は行っていない。必要なものはご家族にお願いするか、施設で購入して実費請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時の対応はご家族と決めている。電話の許可をされたご家族には要望時にはかけている。又、兄弟に手紙を書かれる方にはご家族に切手と便せん封筒を準備してもらい、スタッフが投かんしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂はゆっくり席の配置をして、必要があれば席替えも行う。生活空間は飾り物などは極力せずに落ち着いた空間演出をしている。室温調節も季節に応じて行い、冬は床暖も使用している。	共用スペースが広く、キッチンカウンターがある。ホームは、木材を基調とし明るく感じる。外にはバルコニーもあり、天気の良い日は日光浴もできる。臭気もなく、清潔であり、落ち着いた空間作りが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの定位置が決まっており大体同じ場所にて過ごされている。時々スタッフも加わって座談会があるが、一人ポツンとならないように声かけはしているが本人の意思を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は家具の持ち込みも自由で、お好きなように配置もされている。しかし、ご家族によって考えも色々で何も持ってこない方もいる。	持ち込み制限はなく、入居者家族の写真を飾ったり、家具を持ち込み、その人らしい部屋となるようにしている。また、居室には温度計があり、適切な空調管理を行うなど、居心地のいい空間づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力の活用には力を入れている。個々のできることを把握しておき、出来ることはご自身でしていただくようにしている。		